

平成28年度第1回豊後高田市総合教育会議議事録

日 時 平成28年8月3日(木) 15:00-16:30

場 所 豊後高田市高田庁舎本館301会議室

出席者(市長部局) 永松市長

(教育委員会) 河野教育長、松田委員、大嶽委員、宮崎委員、高井委員

事務局 市 : 佐藤総務課長、近藤総務法規防災係長

教育庁 : 安藤総務課長、小川学校教育課長、馬場総括主幹

○佐藤(市総務課長)

みなさん、こんにちは。豊後高田市総務課長の佐藤です。協議事項が始まるまでの間進行を務めさせていただきます。

本日の出席者は、市長、教育委員会の教育長及び委員の皆さん、6名全員出席であります。ただ今から、平成28年度第1回豊後高田市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、皆さんにご了承いただきたいことがございます。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、原則公開するとなっております。法の趣旨にそって、原則公開で開催させていただき、会議内容につきましても、原則公開させていただきますので、ご了承願います。

はじめに、永松市長よりごあいさつ申し上げます。

○永松市長

皆様におかれましては、大変お忙しい中、また暑い中、総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この総合教育会議につきましては、先ほども総務課長から話がありましたように、教育委員会の皆様方と私ども市との意思疎通がないということのためにできたものだと私は思っております。そういう面では豊後高田市は、意思疎通はちゃんとできておりますので、そんなに必要ではなかったかなと思っておりますが、こういう制度ですので、それによりまして、私どもも、制度を有効に使わせていただきたいと思いますと思っております。

そういう面では、ぜひ皆様方とご議論をさせていただきたいと思う次第でございます。

この度、新教育委員会制度に基づきまして、新教育長を議会の同意を得て任命するという行為をさせていただきました。

新制度で初代の教育長ということで、私と一緒に豊後高田の教育を高めていただいた教育長ですので、初代教育長にふさわしい人であると思っておりますので、

残念ながら、私も教育というのを大きな声で話せなくなりつつあるということは、やはり我々も反省しなければならないと思っております。

スポーツが良くなったから学力が落ちたというのは、ちょっと無理だろうと思いますし、そういう面では、両方良くなければならないと思っています。

私は、学校というものは生き物だと思います。生き物ですので、それに応じた組織を作っていかなければならないのではと思っています。

やはり、学校教育をどうするかというのは、皆様方がよく議論しないといけないのではと思っています。複式学級がたくさんあるというのは、私はよくないと思います。

それをどう解消するかとかそういう議論は、私は杵築市が大田の学校をなくしたというのは、これは大変なことであったと思います。我々も痛みを出さなければならぬ時期に、昔はたくさん痛みを出していました。今は少し横綱相撲を取り過ぎているかなあという気がしているところでございます。

反対に頑張っているのが高田高校で、今魅力ある高田高校にしようという事業をやっております。ひとつは地域に密着した高校教育にしよう、ひとつは学力を上げようということで、北九州予備校の先生をたくさん連れてきてやっています。そしてもう一つは、本市の地域活力創造課と手を組んで、移住の人たち子どものある人たちを連れてきてほしいという、そしてオープンスクールをするという、これは目の前の中学3年生にするのではなく、将来的に高田高校をいいと言ってもらえばそれだけでいいという、そういうふうなことまでやっていただいているのが高田高校です。そして、あの小さな高校で2年連続京大という、これは本当に珍しいことで、頑張っているなあと思います。

その高田高校の校長先生から、(成績は)結局団子で下のほうが多いという、これは昔と全く同じようになっている。そして上に何人かいる。だから、なおさら教育が難しいということをお聞きしました。

私はトータルとして上がっていると思っておりましたけれども、今回の成績をみればそういうことになるのかと。だったら「教育のまち」という話では全くないなと。

何とかして校長先生方や担当の先生方も、もう一度新たな気持ちになって、挑戦してもらいたいと思います。

そして、今年の4月に言いましたように、子どもに本当の実力をつけてもらいたい。

全国模試や中学模試が上だと一喜一憂するのも一つなんです、それが良くなければトータルの実力も上がらないと思いますけれども、やはりトータルの実力を上げるようなものをしないとだめなんではないかと思っております。

ぜひ、高田高校にいい人材を送って、大学に行くのがいいということではないかもしれませんが、目標でありますのでよろしく願いいたします。

本日皆様方とご議論させていただくのは、教育大綱の作成ということでありますので、どうぞよろしく願いします。

○佐藤（市総務課長）

それでは、次第にそって、協議・調整事項に移ります。

会議は、豊後高田市総合教育会議運営要綱第2条第3項に基づきまして、市長が議長として議事進行を行うようになっていきます。

市長、よろしく申し上げます。

○永松市長

それでは、私が議長をさせていただきます。会議を進めてまいります。

次第3の協議、調整事項ですが、「豊後高田市教育大綱の策定について」であります。

昨年度、この会議で、教育大綱を策定いたしました。が、本年3月に、第2次豊後高田市総合計画を策定しましたので、これに沿って、教育大綱も新たに策定するものであります。事務局から説明をお願いします。

○安藤（教育庁総務課長）

教育委員会の安藤です。私から大綱案についてご説明させていただきます。

資料は、大綱の案と、A4の総合計画の1枚紙まとめたものと、教育ビジョンと書いたもの、この3つを見ながら説明をしたいと思います。

皆さんご存じのとおり、教育大綱につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づきまして、教育行政に関する施策の基本的な方針を、市長が総合教育会議の場において協議して定めるとなっております。先ほど市長が話がありましたけれども、既にこの大綱につきましては昨年の8月27日に開催されました総合教育会議において策定済みでありますけれども、その後総合計画の見直しがございましたので、それに合わせて、今回見直しの案を提案させていただくものであります。

次が対象の期間でありますけれども、市の総合計画につきましては、実施期間が10年ありますけれども、その中の基本計画の部分については、5年後に見直しを行うというふうになっておりますので、今回の大綱につきましてもそれに合わせて5年間の対象期間とさせていただきたいと思っております。

次が基本理念でございます。新しい総合計画のほうでも、教育に関するところの基本的な理念は変わっておりませんので、現在あります基本理念と同じ「～あす（将来）を担うひとづくり～」ということで、基本理念を設定させていただきたいと思っております。

次が、基本方針でございます。今まではあまり説明書きがなかったんですけども、今回具体的な説明書きを加えさせていただきました。この1枚紙の総合計画をまとめたもので、4つ項目が四角があると思うんですけど、まちづくりの基本目標の4つの中で、左から2番目ですね、「地域を支える人を育み、人にやさしいまちをつくりまします」と、その中で、赤の点線で囲んでいる部分、黄色に塗っています、この部分が教育に係る部分ですので、この部分について基本方針を定めております。

順番に説明させていただきます。まず、カッコの3番目に「夢を描き実現できるぶんどたかだっ子の育成」という項目がありますけども、今までの大綱につきましては、基本方針がこれになっておりました。

個々の部分につきましては、子どもの教育に関する部分でありますので、タイトルが大きすぎますので、もうちょっとくわしくタイトルのほうをするために、小さい項目で基本方針を定めております。

上から順番に行きたいと思います。

まず、1番目「知・徳・体を総合的に育む学校教育の推進」ということで、「教育のまち豊後高田」として、「確かな学力」の育成をはじめ、「豊かな心」の涵養、「健やかな体」を育み、「学びの21世紀塾」など多様かつ主体的な学びの場の提供や、幼・小・中・高の連携の充実を図るとともに、地域全体が子どもの教育を推進し、健やかな子どもの育成に向けて「協働」します。というふうになっています。

次のページをご覧ください、2番目としまして「時代の変化に対応したグローバル社会を生き抜く力の育成」であります。

内容としましては、急速なグローバル社会の中で、社会課題に対する関心と深い思考力など、国際的に活躍できるグローバル人材を育成し、郷土愛も育む教育を推進します。

3番目といたしまして「地域力を活かした学校づくりの推進」ということで、子どもの学力差に応じたきめ細やかな指導の充実とともに、すべての学校において「コミュニティスクール（学校運営協議会）」を推進し、「学びの21世紀塾」の充実や「学校地域支援本部」などの効果的な活用を図り、学校・家庭・地域の「協働」を進めます。

4番目が、生涯学習の推進に係る部分でございますけども、「変化の激しい時代を生き抜く、生涯を通じた学びの支援」ということで、多様化する社会の変化に対応し、子どもから大人・高齢者までが積極的に学び、ライフステージに応じて、いきいきと暮らせる社会を構築するため、図書館をはじめ公民館などの社会教育施設において学びの場を提供し、地域活動に生かす体制の充実を推進します。

次に5番目であります。「歴史的文化遺産の保存・活用・継承と芸術文化活動の推進」ということで、六郷満山文化をはじめ、生活に根付いた伝統文化の保存・活用・継承に取り組み、地域の活性化にもつなげ、市民が優れた文化・芸術に触れ・親しむ環境づくりとともに、継承者の育成を推進します。

次が、市民の体力の向上の推進に係る部分でございます。「市民が生涯にわたってスポーツに親しむ活動の推進」ということで、市民だれもが運動のきっかけが得られ、運動能力の向上や持続的運動習慣を實踐できる機会を提供し、ライフステージに応じた地域でのスポーツ活動に積極的に取り組むとともに、「チャレンジデー」などのイベントにも参加し、スポーツを通じて、より健康的な生活が送れるよう推進体制の創出を図ります。以上が方針の6項目であります。簡単ですが説明に変えさせていただきます。

○永松市長

ただいま事務局から説明のあった教育大綱でございますが、ご質問、ご意見は、ございませんでしょうか？

○松田委員

この教育大綱の6つの基本方針という部分は、高田独自の部分だと思うんですけども、文科省等の指導に則ったといいますか、そういったものがあるんですか？

○安藤（教育庁総務課長）

そういったものに沿って作っています。

○松田委員

それに沿ってできている。高田だけの独特な部分はこの中に入っていますか？

○安藤（教育庁総務課長）

学びの21世紀塾の部分等、そういった取組については、独特なものとなっています。

○河野教育長

もう一つは、平成28年度版の、教育再生実行会議が第9次提言を出しており、それに基づいて大分県教委も大きな方針を決めて、そこに基づいて豊後高田市も具体的な色々な方針を決めております。その枠内の中で、特に豊後高田の場合は、学びの21世紀塾をはじめとした独自の取組、コミュニティースクールが中々浸透しない中で、市長の肝入もあって、すべてに学校運営協議会を設置しているところであります。そういうふうな取組というのは、学校と保護者と地域が一体となった協働的なそういう取組を色々なところで開花させております。チャレンジデーもしかりでありますけれども、基本方針の中に入れております。

○永松市長

期間の5年間というのは、私はいいと思っている。

誰かが作ったものを変えるというのは中々難しい。

○高井委員

歴史的文化遺産の保存・活用・継承と芸術文化活動の推進というところで、本当に豊後高田というところは、文化の盛んなところで、文化協会創立50周年という歴史を見

でも、ほかのところに比べても、昔から文化の栄えたところだという気がしている。文化協会の中の一つ一つをとっても、例えば謡曲三流派合同発表会は170何回とか、1年に2回ですけれども何十年という歴史を感じる。本当の意味で子どもたちに、よそにない、豊後高田の独特な歴史文化を、継承していつてもらいたいと思っている。

○永松市長

豊かな豊後高田市の遺産だと思っているが、(高齢化で)それがなくなりつつあるのは残念である。高齢化で若い層がいなくなっている。市の職員でも昔はお謡いなど文化活動が盛んであったように思う。文化度は確かに高いが、どう守っていくのが難しい。

○松田委員

昔は商店街しかり余裕があったように思う。

○大嶽委員

学校教育の推進のところで、旧真玉町と旧豊後高田市の境に「教育のまち豊後高田」の看板がありますけど、それを見て励まされるときと、プレッシャーに感じるころもあります。こちらの1枚の全体像の中には「教育のまち」という言葉をうたっていないんですけど、これからも市長としては、「教育のまち」をスローガンに掲げていかれるのであれば、それをもう少し私たちも強調していかなければいけないと思っています。

豊後高田が十数年になる学びの21世紀塾の取組がマンネリ化したり、問題も出てきているところも、少してこ入れする必要もあるんですけども、もうちょっと市民に訴えていくというのが足りないかなと反省しているところであるんですけど、いかがでしょうか。

○永松市長

最近、教育長とも最近、そういった話をしていない部分もあるんですけど、昔ある小学校では、地域の人に来て点数をつけてあげたり色々な支援をしていた。

その小学校の成績が大分県一位になったとき、その理由として、地域が本当に育てる学校なんだと思いますと知事に話したことがあります。

○河野教育長

豊後高田が先行して実施したことが、県が制度化し、全県下で実施している。

地域の人が放課後教えてあげる、大変いいことだからということで、県全体の予算化し、ずっと今ままでそういうことがあった。学びの21世紀の中にもずっと後追いをされてきて、現在はステップアップ学習というそういう制度になって、全県で制度として、されている。

実は午前中、教職員を集めて、今回の課題については、私のほうから、公教育の教師としての説明責任ということを中心として、例えば今、夏休み特別講座が始まっていますが、昔はずっと前、学びの21世紀塾の特別講座が始まったときには、多くの学級担任と教科担任が中に入って、多くの先生が入って、そして教える人と、T1、T2、T3で、補助で入る人がたくさんいたよ、今はそういう人がほとんどいない。こういうこと一つとってみても、なんとなくマンネリ化し、この子どもをどこまで伸ばせるのかという責任感が薄くなったのではないかという話も含めて、今回の中学校の全県の学力テストについての総括といいますか、反省点について、教職員に具体的に何をすればいいのかという話をさせてもらいました。

そして、教科ごとに分かれて、教科ごとの何がじゃあ夏休みにできるのか、2学期に何ができるのかということについて、午前中協議をしてもらいまして、私たちもすべての分科会のほうに入りまして、そして、その協議の内容も聞いたところであります。

そういう中で、今からできること、2学期・3学期にできること、具体的な部分を私の方で把握するようにしています。そういう中で、学力そして、体力すべての面で、子どもたちの能力を開花させようではないかという話をこれからもしていきたい。

そういう意味では、大見出しのセット後には「教育のまち」というのはありませんけれども、1ページの下段の部分の「教育のまち豊後高田」というのは入れさせてもらっていますし、市長が言われるように周りの人は「教育のまち豊後高田」と言ってくれておりますので、何とかこれは高くこれからも掲げていきたい。

○大嶽委員

安心しました。

○永松市長

ぜひそうしてもらいたい。私は、この教育改革をするときに、若いけれども、高田中学の校長に課長を・・・と、(当時の)教育長と話をし、校長がどんどん学校改革を進めていった、その勢いがなくなっている気がする。

今、目玉の校長は誰なのか見つからないという気もする。

○河野教育長

私もいろんな学校に行って、緊張感を持って、いろんな取組をするように指導しているところです。

○松田委員

いい子は伸ばす。悪い子も引き上げる。かなり幅が広い中でいい子を伸ばす部分が義務教育の中では難しいという部分があるようで。

せっかく学びの21世紀塾があるのであれば、少なくともその中ぐらいで、勉強の楽しさと言うんですかね、先にどんどん進んでいく楽しさを教えてあげたらと思うが。

○大嶽委員

保護者の声を聞いても、教員の質が大きく左右するというということですのでごく気にされて、教員の質を上げるというのが教育長も一番大きな課題だということで、ずいぶん厳しく指導されてきたところもあると思うんですね。

だから、ほかの市町村をお聞きすると、豊後高田の教員は、質的にはかなり高くなって、仕事にもすごく真剣に取り組んでいますし、市長もご存じだと思いますけど、夜遅くまで教材研究したり、生徒指導したりそれは誇れるぐらいがんばっているところがあると思うんですね。今回の中学校の結果が少し残念なところがあったのですが、一概に教員のせいだけとは言えないところもあると思うので、これからも厳しく温かく見守っていただけたら、また頑張るところがあって、芽が出るのではないかなと思います。

○永松市長

厳しさは、うちの職員の方が厳しいですよ。評判もいただいておりますが、私はまだ物足りませんけども。

それでは、「教育のまち」の旗は絶対に降ろさないということで、教育長いいですね。そのほか、ご意見はありませんか。

それでは、事務局から説明のありましたとおりで、教育大綱を策定してよろしいでしょうか？

○永松市長

はい、それでは、この案で教育大綱を決定したいと存じます。

ありがとうございます。次に、4点目の意見交換でございますが、

今まで意見交換もしてきた感じですけど教育について、引き続き、ご意見等ございましたらお願いします。

○河野教育長

本日の資料の中で、「教育ビジョン2016」ということで、皆さんの手元にお配りしておりますけれども、これからも「教育のまち豊後高田市」ということで、表紙に載せておりますが、市長から話がありましたように、これからも掲げ、ときどきプレッシャーも感じますが、負けないように努力していきたいと思っております。

文部科学省、県教委、その方針と合わせて、豊後高田市独自の方針の中身をたくさん入れて、子どもたちが夢をしっかりとって、それをどう実現させるかという、その実現に向けてどういう取組みにするかということで、具体的にそこに、取組についての方策

を出しております。

これにつきましては、基本的には、指導要領改訂等ありますので、それと合わせて、なるべく一番新しい、いわゆる流行の部分を取り入れて、そして不易な部分というのはしっかりと残して策定し、そして今後に行きたいと思っております。それから一番裏面の部分につきましては、年度ごとに指導指針を設けて、そしてより具体的にこののを、これに基づいて、各学校でも教育目標を策定させて、具体的に取組んでいくところでありますので、よろしく願いをしたいと思っております。

それから、その中でもフッ化物洗口についても入れさせてもらっておりますけれども、おかげで、豊後高田市においては、9割以上の生徒がフッ化物洗口を実施して、食育という視点で歯の大切さを子どもたちにもしっかりと理解をさせ、保護者にも地域にも理解していただいて、より健康な将来の市民を出そうということで取組を進めて13回、現在1学期に実施したところでございます。

議会でも質問をいただきました課題なだけに、課長もですけども、みんなで13回フッ化物洗口をさせてもらいまして、そして問題がないということも検証させていただきました。

教育委員の皆様にも、ずっと協議をしながら進めてきたところでございます。

県の食育条例に基づいて、歯磨きもしっかり実施していきたいと思っております、

○宮崎委員

歴史的文化遺産の保存・活用・継承についてですが、私は、高田小学校の地区に住んでおりますけれども、うちに子ども三人いまして、「富貴寺、熊野磨崖仏、真木大堂に有名な三つ行ったことあったかな」と聞いたら「ない」ということであつたので、時間もあつたので、連れて見に行つたんですけれども、私も別府出身で中学の社会見学で300人ぐらいでバス10台ちかくで行つたことがあるけれども、生まれたところが行つたことがない。

夏休みに希望の参加でそういったところにまわって勉強会があるんですけども、参加しない以外は、見てない子どもが結構いるみたいです。せめて最低限、富貴寺、真木大堂、熊野磨崖仏ぐらいは、見たことがない子どもがいないように、時間をとって見せてあげたいなあということを思いました。

○永松市長

私はいいことだと思います。今はおかげで、豊後高田市出身というのを誇りに思っている人が多い。これは昭和の町のおかげだと思います。よそに行かなくても、地域を回ってでも、本当に誇れるところだけでもみんなにというのは大事だと思います。そういうことで（吉弘統幸の笥城跡を）戴星学園の裏に何が何でも作りたいと思いましたが、戴星学園の子どもたちが掃除すべきだと思っている。そうすることで歴史の認識

になるんじゃないかなという気がしました。

確かに田染の子どもたちは富貴寺を知っているかもしれませんが。ぜひそういう面では、考えていただきたいと思います。

自分の生まれたところを自慢できる、誇りに思えるところを子供たちに教えてあげたいという。そういう面で、今年から初めて、私は成人式で（新成人と）議論も何もしないようにしましたが、最初は（新成人の皆さんが）何せ高田を知らないから、普通のあいさつから「高田はいいですよ」と話をして、そうすると高田に残るという話になって、そうすると各校との議論をやって、会場との議論をやって、私はこの取組は悪くないと思っていたが、一つの区切りということでもうやめることになりましたけども。

やはり、どこかで、親もみんなも高田はいいんだというのをどんどん言っていかなければ、子どもたちに高田が悪いから、我々の時代は高田が悪いから帰ってくるなど、そういう話だったですからねえ。

今は、討論会でもほとんど高田に帰ってきて就職するという人たちは多かったですよ。

昔は就職口がないからというばかりであったが。今は、商工会議所の若手の人達は結構Uターンして帰ってきている。それだけ元気があるんですね。

○大嶽委員

高田に住みたいとか、高田の教育がいいとか、子育ての手厚い補助があるとかで、すごく高田についてあこがれているとか、近隣の市町村はすごく高く評価している。結構高い評価が広まっている。

○永松市長

評価が広まっているから、その中で一番悪かったらどうなるか。

来てくれた人に申し訳ないんじゃないかと。

それではよろしいでしょうか。委員の皆様からの貴重なご意見、ありがとうございます。それでは、私の議事進行の役目は終わります。

○佐藤（市総務課長）

それでは、以上をもちまして、平成28年度第1回豊後高田市総合教育会議を終了いたします。皆様、大変お疲れさまでした。

（終了）